

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和8年2月19日

北海道運輸局

協議会名: 中空知地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	地方運輸局等における二次評価結果
北海道中央バス(株)	滝新線など全4系統	利用動向に応じたダイヤ設定を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 計画策定時から路線廃止・減便があったため、広域交通及び生活圏交通の利用者数が目標「1,135千人以上」に対し「936千人」であった。 B 物価高等の影響を受けた欠損額の増大により、広域交通及び生活圏交通の平均収支率は目標「46.52%以上」に対し「40.95%」であった。	利用者のニーズを反映させつつも、持続可能な生活交通とするため、必要に応じてルートや運行回数等を見直し、運行の効率化を図る。	・計画どおり事業は適切に実施されている。 ・目標を達成することができなかったが、引き続き、地域の関係者が連携して、貨客混載・路線再編・観光需要の取込・各種利用促進策などの地域間幹線系統における乗合バス事業の生産性向上に取り組むことを期待する。
空知中央バス(株)	滝深線など全2系統	利用動向に応じたダイヤ設定を実施した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	B 物価高等の影響を受けた欠損額の増大により、広域交通及び生活圏交通への公的資金投入額は目標「248,750千円以下」に対し「303,298千円」であった。 B 路線合理化に伴い、計画策定時から減便されたため、地域間幹線系統に接続している地域内フィーダー系統の便数は目標「117便」に対し「105便」であった。	利用者のニーズを反映させつつも、持続可能な生活交通とするため、必要に応じてルートや運行回数等を見直し、運行の効率化を図る。	・また、上記取組にあたっては、取組効果を把握して、収支改善に資する取組となるように、適宜見直しを行うことを期待する。